

学びの成果をどう可視化し、組織的な教学改善を推進するか

■講師



高橋 哲也
 (大阪府立大学学長補佐(教育担当)／高等教育推進機構 教授)
 京都大学 理学研究科数学専攻修了後、大阪府立大学総合科学部助手、同大学総合教育研究機構教授、副学長(教育担当)等を経て、2013年4月より現職。研究テーマは、IR(Institutional Research)の実践的研究、大学数学教育、局所体上の代数群のスーパーカスピダル表現に関する研究、数学学習支援システムの開発、整数論の暗号理論への応用など。



福島 真司
 (山形大学エンrollment・マネジメント部 教授)
 広島大学学校教育研究科言語教育学専攻修士課程、桜美林大学国際学研究科大学アドミニストレーション専攻修士課程修了、ビジネス・ブレークスルー大学大学院経営学研究科修士課程修了。山陽女子短期大学助教授、宮崎国際大学助教授、鳥取大学准教授等を経て、2007年7月より現職。専門は教育社会学、日本語学で、研究テーマは、大学マネジメント、大学ガバナンス、大学マーケティング、米国大学の管理・運営方法、大学入学者選抜方法など。



橋本 智也
 (京都光華女子大学EM・IR部)
 京都外国語大学フランス語学科卒業、大阪市立大学大学院文学研究科前期・後期博士課程修了。NTT コミュニケーション科学基礎研究所での実習生及び東京での企業勤務を経て、2012年4月から現職。大学職員として実務的な視点からIRなどの文献をまとめたサイト『私立大学職員によるInstitutional Research(IR)文献メモ』を更新中。

司 会 : 小林 直人(愛媛大学学長特別補佐／教育・学生支援機構教育企画室長 教授)

■プログラム概要

近年の高等教育改革の動向として、教員が「何を教えるか」から学生が「何を学び、修得するか」という学習成果への転換、および学習成果の「可視化」と「公表」といった説明責任の遂行が強調されています。

そこで、本シンポジウムでは、「学びの成果をどう可視化し、組織的な教学改善を推進するか」というテーマを設定し、国公私立大学における事例をもとに、学習成果の可視化とデータによる教学改善についての知恵と課題を共有することを目的とします。具体的には、「学生の学習に関するデータをどのように収集・分析しているのか」「学生の学習の成果をどのように可視化しているのか」「学生の学習のデータをどのように組織的な教育改善に活用しているのか(活用しているのかと考えているのか)」「学生の学習のデータが組織的な教学改善に有効に活用されるためにはどのような課題があるのか」などの論点を検討することで、参加者の所属する機関の実践に役立つ知見を提供することを試みます。なお、当日は、まず3名のパネリストに実践事例をご報告いただき、その後パネルディスカッション等を行う予定です。

■日時・会場

日 時 : 平成27年8月27日(木) 15:30~17:45
 会 場 : 愛媛大学 城北キャンパス